

衛生システム、弾性表面波工学、マイクロ波電力工学など多くの興味ある問題がある。

口 講座内容

講座名	教 官 名	授 業 科 目
電子物理学講座	教授 榎庭 一 郎 助教授 三 島 瑛 人	電子管工学, 電子デバイス工学 量子電子工学, 光電子デバイス工学
電波伝送工学講座	教授 藤 精 彦 助教授 小 川 恭 彦	情報伝送工学第一, 第二 電磁波工学第一, 第二
電子回路工学講座	教授 小 川 吉 彦 助教授 北 島 秀 夫	電子回路第一, 第二 デジタル回路, ハルス回路
電子機器工学講座	教授 水 田 邦 一 助教授 梶 内 香	有線通信工学, 計算機工学第一, 第二, 電子制御, 電気音響学
固体電子工学講座	教授 前 田 正 雄 助教授 佐 藤 正 義	固体電子工学, 電子物性工学, 半導体工学, 電子材料, 統計物理学
電波応用工学講座	教授 鈴 木 雄 道 助教授 小 柴 正 則	情報理論, 通信方式, 電磁気学 電子計測

ハ 進学希望者の心得

電子工学科は第1回生以来、教養部の優秀な学生が集まっているが、これは他の大学でも同様の傾向のようである。学問の内容が新しく、卒業後も開発的、研究的仕事に携わる事が多いので、数学、物理学が特に重要である。また、卒業後、海外に派遣される機会が多いので、語学も重要である。理学部や工学部の他学科に比べて製図の時間は遥かに少なく、1単位だけである。理学部と工学部の中間的性格をもち、応用物理に比べて専門的色彩が濃い。したがって数学I・II・III及び物理I・II・IIIを履修することが望まれる。

ニ 就職の傾向

就職先はメーカーが多く、そのほとんどが東京周辺地区である。例えば日立・東芝・三菱電機・日本電気・沖電機・富士通・松下電器・ソニー・日本ビクターなどである。また、通信、放送事業として日本電信電話公社(含、電気通信研究所)・NHK(含研究所)・国際電々・国鉄(電気関係)などがある。その他の大学や高専・通産省・電子技術総合研究所・電波監理局などの公務員も少数ある。一般に就職は非常によく、ほとんどが一流会社である。

(10) 応用化学科 (定員30名)

イ 本学科は昭和13年4月わが国最初の燃料工学桶として創設され、その後、昭和21年4月応用化学科に転換し現在、応用化学6講座をもって学科を構成している。

しかし化学系共通講座である工業物理化学2講座、工業分析2講座も実質的に同一学科内講座のように教育に協力しており、また、科外の講義として機械工学、電気工学などの講義並びに実験がある。

応用化学科の履修すべき学科目は工学基礎科学・化学工学・工業化学で第3学年には学外実習があり最終的には各講座にわかれて卒業研究を行っている。

口 (1) 講座内容

講座名	教 官 名	授 業 科 目
応用化学第一講座	教授 山 口 賢 治 助教授 上 牧 修	化学工学第一, 化学工学演習 化学工学大意 化学工学第二, 化学装置設計及び製 図法
応用化学第二講座	教授 大 内 公 博 助教授 伊 藤 耳 徳	燃料工学 高圧化学
応用化学第三講座	教授 鈴 木 徳 章 助教授 米 田 彦 彦	石油工学 有機化学第二, 有機合成化学, 有機化 学演習
応用化学第四講座	教授 林 治 助 助教授 戸 坂 園 夫	高分子化学, 有機合成化学工業 纖維素化学工業, 有機化学第一, 有機化学演習
応用化学第五講座	助教授 小 平 紘 平	無機工業材料, 応用無機構造化学 無機化学
応用化学第六講座	教授 石 井 忠 雄 助教授 古 市 隆 三 郎	無機工業化学 工業反応速度論

(2) 協力講座

以下の化学系共通四講座が協力している。(各講座の授業科目は化学系共通研究室の項参照)

理 学 第 二 講 座(教 授 佐 藤 教 男 助 教 授 瀨 尾 真 浩)  
工 業 分 析 化 学 第 一 講 座( 助 教 授 田 村 紘 基)  
工 業 分 析 化 学 第 二 講 座(教 授(兼)永 山 政 一 助 教 授(併)田 中 慶 一)  
工 業 物 理 化 学 講 座(教 授 吉 田 宏 助 教 授 小 笠 原 正 明)